

今日も訪問へ行く

～BCP 訓練編～

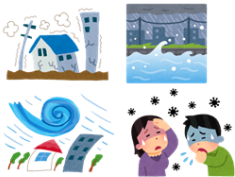
令和 7 年 7 月 5 日、第八回医師・訪問看護師交流会が開催されました。

訪問看護ステーション野の花からは、看護師 3 名・作業療法士 1 名・事務員 1 名が参加しました。

今回のテーマは【BCP について】でした。

訪問看護におけるBCP（業務継続計画）

訪問看護におけるBCPとは「災害や感染症の非常時でも在宅療養者の生活を継続的に支える事業継続計画」である



【目的】
○災害時および緊急時に職員の安全を確保すること
○利用者の生活を維持するために訪問看護サービスの提供を継続させ、地域の医療・介護資源を担う役割として訪問看護ステーションを存続させること

【重要性】
○災害発生後は物的資源や人的資源の枯渇により訪問看護の需要が高まる
○災害時は医療・介護介入の緊急性が高い利用者も出てくるため早急なサービス提供が必要とされる



訪問看護における **BCP** とは

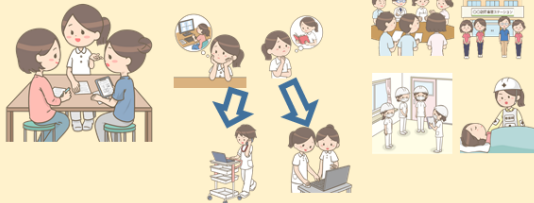
「災害や感染症の非常時でも在宅療養者の生活を継続的に支える事業継続計画」

であり、日ごろからシミュレーションや訓練が必要とされています。

平時から考え検討することで、有事の選択肢を増やす

利用者様や家族様への対応を決めておく
(医療やケア内容)
周辺環境を常に確認しておく
(交通網のチェックなど)

平時から情報共有や地域連携、訓練を行う



緊急時に職員が「どの手順で何をやるのか？」が明確に理解できるように記載する情報を整理し、緊急時にすぐにその内容を確認できる所に設置する

オールハザード・アプローチ（全災害対応型）
災害等の状況に合わせて医療依存度が高い利用者を優先して安否確認・支援を行うなどを決める



前半の講演会では、奈良県警察本部より大規模災害時の交通規制や駐車許可等について学びました。

交通網が混乱することが想定されるため、普段から利用者様宅への様々なルートを知っておくことが大事だと再認識しました。

後半は、災害時のシミュレーション訓練を行いました。

グループワークでは、様々な場面を想定し、災害直後はどのように行動するか、利用者様や家族様への対応はどのようにするのか、安否確認の方法や各機関との連携方法など、活発な議論が展開されました。

様々なステーションと意見交換ができ、実りある時間となりました。

今回の研修は、改めて災害対策について考える良いきっかけとなりました。

地域に出て看護を提供するということは、本当に様々な課題があると学びました。

今後いつ起こるか分からない災害に備えて、常日頃からしっかりとステーションで話し合い、地域の皆さんの生活を支えていけるよう尽力していきたいと思います。